

組織等の概要、取組の特徴及び意見・要望等

(分野：農業経営者)

阿賀川土地改良区 理事 猪俣 今日子 氏 P 1

(分野：農業経営者)

(有)大和農園 代表取締役 大塚 和浩 氏 P 2

(分野：農業関係団体)

十三湖土地改良区 理事長 野上 憲幸 氏 P 4

(分野：消費者団体)

みやぎ生協 地域代表理事 信山 澄重 氏 P 6

(分野：農業経営者)

岩手町認定農業者 福士 好子 氏 P 7

(分野：地方公共団体)

山形県舟形町 町長 森 富広 氏 P 8

組織等の概要、取組の特徴及び意見・要望等

法人名・組織名・自治体名	—
氏名(肩書き)	猪俣 今日子 (阿賀川土地改良区 理事)
所在地	福島県河沼郡会津坂下町
経営の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営面積 水稲 44ha (作業受託 19ha 含む) ・ 播種苗、育苗苗の販売 ・ 家族経営であり、父、母、夫、本人のほか季節従業員 2 人 ・ 米の販路として、卸売り 8 割、直接販売 2 割
取組の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地を大区画化し、畦畔除草などの管理作業の軽減。 ・ 密苗播種、密苗移植による省力化、低コスト化。 ・ 自作のラジコンボートでの農薬散布による作業の効率化。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ GPS 農作業機械の導入 (スマート農業)。 ・ 温暖化による高温障害や倒伏などの影響を受けにくい品種への移行。それにより、品質低下や農業機械へのダメージなどを防ぎ、作業効率を上げ、生産に取り組んでいきたい。
農業農村整備に対する意見・要望等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用水路の上流地域にも関わらず、U字溝の幅が狭く田んぼ内に溢水することがある。個々が増し枠などをして対応しているが、整備をかんがえて欲しい。 ・ 近年の集落内の高齢化・混在化などの進行に伴い、地域資源の保全管理に対する担い手農家の負担が大きくなっている。 ・ 県内外の業者が太陽光パネルの設置を目的とし、農地を買い上げようとしている動きが見られる。まだ設置されている所はないが、今後設置された場合、隣接地や近隣の反射光による日照や排水トラブルならないか心配している。

組織等の概要、取組の特徴及び意見・要望等

法人名	(有) ^{だいわ} 大和農園 ・ (有) ねぎっこ村 (農産物直売所)
氏名 (肩書き)	大塚 和浩 (代表取締役) J Aあきた白神ねぎ部会長 秋田県農業士連絡協議会会長 能代南土地改良区理事長
所在地	秋田県能代市
概要 大和農園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白神ねぎ 18ha (白神ねぎはR6年度初めて22億円達成) ・ ビニールハウス 1.8ha (60棟 ちんげん菜、ほうれん草) ・ 社員5名 周年雇用従業員17名 (外国人7名含む) ・ H3年全国農業コンクール名誉賞 (大臣賞) 受賞
ねぎっこ村	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従業員2名、会員62名 (本店以外インショップ5か所) ・ H12年 ねぎの大量輸入をきっかけに地域の農家を集めて設立 ・ H17年 豊かな村づくり全国表彰で大臣賞受賞
能代南土地改良区とあさかわファーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改良区内に砂丘地畑地工区82haがある。 ・ 農地集積加速化基盤整備事業河戸川・浅内地区250ha (平成29採択) ・ (株)あさかわファーム設立 (取締役) 250haを中間管理機構を通して集積を目指す。
取組の特徴 大和農園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化等による耕作放棄畑を食い止めるためにも積極的に規模拡大 ・ 園芸メガ団地事業を活用して大規模ねぎ周年出荷経営を目指す。 ・ R4年の豪雨災害を経て基盤整備田にねぎ作付を開始し、地下灌漑システムを活用し田畑輪換、水田フル活用を目指す。
土地改良区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田んぼダム現在設置率75%。 ・ 管内全ての水田で一通り基盤整備終了。 ・ 団体営ため池緊急防災環境整備事業導入。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雪国秋田で野菜の雇用周年出荷経営の確立に挑戦していく。 ・ スマート農業導入で作業効率性を改善する。 ・ 地下灌漑システムを活用し田畑転換、輪作による水田フル活用を目指す。

農業農村整備
に対する意
見・要望等

- ・法人は優良な農地だけを集積する状況に来ている。放棄地を農地から保全地や他活用に転用する施策が必要。
- ・スマート農業貧乏にならないよう、費用対効果が高い機材の開発普及を早急に望む。
- ・畑地井戸揚水施設の老朽化、県事業対応しているが国事業としての対応を望む。
- ・灌漑配管の老朽化（スレート管）100%国事業で交換を望む。
- ・電気代高騰を踏まえて、太陽光・風力自前発電の初期投資の補助を望む。
- ・基盤整備により急勾配の用排水の法面が増え草刈り作業等、スマート農業機械活用が急がれる。
- ・畑地防風林のニセアカシアがアレロパシー作用で、ねぎの生育に悪影響を及ぼしているので、多面的機能支払交付金で伐採しているが、予算面で追いつかないので対応を望む。
- ・兼業農家やホビー農家を新たな担い手に位置づけると基盤整備の集積が進まないのではないか。
- ・暗渠排水は全部は無理。石、土質の関係でやれない所もある。
- ・基盤整備事業において高収益作物導入は担い手耕作者の経営負担になっているのではないか。全国的な作付け増加で、高収益作物が低収益作物になっている。導入が邪魔し基盤整備が進まない。
- ・圃場整備工区の排水路下流に洪水の常習地があり、田んぼダムを行っているが、当初木の板を加工して設置を考えていたが割れたり腐ったり流されたりするため、プラスチック製の器具を購入しているが、当初税込4,820円の物が現在8,250円であり、300円の上乗せ事業費では到底間に合わない。
- ・今後耕作者数の急激な減少が予想される中で、揚水機や用排水路等の維持管理が困難になっていくので対策が必要。

組織等の概要、取組の特徴及び意見・要望等

土地改良区名	十三湖土地改良区
氏名（肩書き）	<small>のがみ のりゆき</small> 野上 憲幸（理事長） （株）十三湖ファーム取締役 ※
所在地	青森県北津軽郡中泊町大字中里字宝森 291-2
経営の概要 組織の概要 自治体の概要	<p>【土地改良区の概要】 受益面積 1,627ha、 組合員数 729 人（中心経営体 100 ha以上 4 件、30 ha以上 10 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国営かんがい排水事業「津軽北部二期地区」（H27～R10） ・国営総合農地防災事業「十三湖地区」（H27～R8） ・県営「十三湖地区経営体育成基盤整備事業」（H27～R10）
取組の特徴	<p>県営十三湖地区経営体育成甚盤整備業により 1,144 a の大区画ほ場整備を進めている。標準区画形状は長辺が 200m、短辺が 60m の 1.2 a で整備され、排水路側にも農道設置されている。</p> <p>スマート水田農業推進に積極的に取組み、さらに、風力発電計画とほ場整備換地計画を連携しながら農地転用を進め、売電収入の一部を農業水利施設の維持管理費に充当し農家負担軽減を図っている。</p> <p>※（株）十三湖ファーム 経営面積 200.0 ha（水稲 190.0 ha、牧草 10 ha） 肉用馬 200 頭 スマート農業技術の開発・実証プロジェクト 「冷害を回避し多収を実現する大規模スマート農業の実証」</p>
今後の展開	—
農業農村整備に対する意見・要望等	<p>【意見】 ○国営事業、県営事業共に 90%以上の同意徴集により着手、同様に計画変更の同意を得て事業を継続している。同意徴集の簡素化をお願いしたい</p> <p>【要望】 ○県営十三湖地区ほ場整備事業は、担い手農家への農地集積・集約化による生産性向上を図り、スマート農業に対応した自動給水栓を設置する。機械器具には寿命もあることから維持管理更新事業の設置を望む。登記完了時に登記簿と水田座標を配布出来ないか ○スマート農業に取り組む農家が増え、乾田直播等の営農にも変化が生じている。新技術に対応した柔軟性のある補助事業と支援の検討をお願いしたい。</p>

十三湖地区計画一般平面図【全体地区】



組織等の概要、取組の特徴及び意見・要望等

組織名	みやぎ生活協同組合
氏名（肩書き）	信山 澄重（地域代表理事）
所在地	宮城県 仙台市
組織の概要	<p>みやぎ生協は、地域住民一人ひとりが出資して成り立つ生活協同組合です。一人ひとりのふれあいからはじまる『協同』の力を大切に、人間らしい暮らしの創造と平和で持続可能な社会の実現を理念として活動しています。</p> <p>事業領域は宮城県全域と福島県の浜通り・中通りで、店舗事業（61 店舗）や宅配事業（17 センター）を柱とし、保障事業、環境活動や食の安全、福祉・文化活動、社会的セーフティネット事業にまでいたりします。</p> <p>◆環境活動…植林、リサイクル、レジ袋削減、再生可能エネルギー事業など ◆食の安全…食育の取り組み、めぐみ野（産消直結）活動など ◆福祉・文化活動…各種教養講座、助け合いの会など ◆フードバンク事業、生活相談再生貸付事業など</p>
取組の特徴	<p>「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」はみやぎ生協の産直の取り組みです。自然環境や生物多様性、人を大切にする農業や漁業の維持・発展・食料自給率の向上に寄与しています。</p> <p>●「めぐみ野」の3つの基準</p> <p>①だれがどこで作ったかがわかること。 ②どのように作ったかがわかること ③生産者とみやぎ生協のメンバーの交流があること</p> <p>消費者・生産者の共通の願いを実現するために地域のみんなで参加する共同の運動です。</p>
今後の展開	—
農業農村整備に対する意見・要望等	<p>昨今の異常気象・地球沸騰化は農業にも大きな影響を及ぼしています。さらに平和を脅かす世界情勢が、燃料費の高騰・肥料や資材などの物価高騰で生産者の経営を圧迫しています。</p> <p>「作ってくれる人がいなければ食べることはできません」 「食べる人がいなければ作ることはできません」</p> <p>消費者に美味しい農産物を届けるために工夫と努力を重ねて生産に取り組んでくださっていますが、それも限界にきているようです。</p> <p>町ぐるみ、地域ぐるみで支える取り組みを継続し、「作り続けられる」という生産者の希望になるような、土地改良事業を期待します。</p>

組織等の概要、取組の特徴及び意見・要望等

法人名・組織名・自治体名	—
氏名(肩書き)	福士 好子 (岩手町認定農業者)
所在地	岩手県岩手郡岩手町
経営の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水稲6 ha、和牛(母牛)13頭、草地15ha、キャベツ1 ha、ピーマン20 a ・ 夏場はパート2名を雇用 ・ 多面的機能支払 グリーンアクアディグ水堀として活動 (ここだけは残したかったので取組みました。陽当たり、水が豊富。)
取組の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多面的機能支払の活動を行っています。地域の皆さんの共同活動に感謝しております。 ・ 個人的には、プール育苗、スマート農業技術(GPS農業機械の導入)、野菜(キャベツ、ピーマンの育苗から)作り、水田借地料は玄米にて地主さんに返している(これは、地主さんがおいしいお米が食べたいと言ったので、ひとめぼれでお返ししました。)
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間地域であるが故に温度差活用作物作り。 ・ 森が海を作る事をしっかり見据えて、全てが荒れてしまわないように活動する。 ・ 鳥獣の棲み分けを考えながら、集落の皆さんの知恵をお借りしながら出来ることをする。
農業農村整備に対する意見・要望等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間地域においても、担い手のやる気を削がない為に頑張りたい。 ・ 長寿命化にも力を入れていただきたい。 ・ インフラ整備が進んでいけば、米作りにおいては園芸よりは少ない人数でやっていける。ただ、機械類の助成金はある方が助かります。 ・ 太陽光パネルが転売されて撤去もされず土が汚染されたりすることを心配しています。 ・ 中山間地域の事業対象面積要件の緩和、10haは無理です。

組織等の概要、取組の特徴及び意見・要望等

自治体名	舟形町
氏名(肩書き)	森 富広 (舟形町長)
所在地	山形県最上郡舟形町
自治体の概要 ※1	<p>農業地域類型：中間農業地域（水田）</p> <p>人口(R2)：5,631人</p> <p>基幹的農業従事者数(R2)：390人　うち60才未満：70人</p> <p>耕地面積(R2)：田1,136ha　畑71ha　計1,207ha</p> <p>主要作物(R2)：水稲742ha　そば213ha　ねぎ13ha　にら10ha アスパラガス6ha</p> <p>ほ場整備率(R3)：水田38.4%</p> <p>農業法人数(R6)：4法人</p> <p>一般会計予算額(R5)：6,184百万円　うち土地改良関係206百万円</p>
取組の特徴	<p>【取組の特徴】</p> <p>①生産コストの削減、高収益作物の導入による収益力強化を図るための生産基盤整備及びスマート農業の推進</p> <p>②農業用水路の越水被害等を防止するための防災減災対策の推進</p> <p>③農業水利施設の計画的保全管理の推進</p> <p>④東北農林専門職大学の学生アパート建設への支援による若者定住の促進及び地域の活性化</p> <p>【取組状況】※2</p> <p>県営農地整備事業(R1～)：5地区259ha</p> <p>水利施設等保全高度化事業(R8～)：1地区550ha、水路監視システム導入</p> <p>農村地域防災減災事業(R8～)：2地区670ha　用水路工</p> <p>農業水路等長寿命化・防災減災事業(R5～)：1地区25ha　用水路工</p> <p>農業水利施設ストックマネジメント事業(R6)：2地区63ha、送水管・取水ゲート</p> <p>東北農林専門職大学学生アパート等の誘致(R5～R8)</p> <p>学生アパート4棟40人　教職員アパート1棟8人</p>
今後の展開	—

農業農村整備
に対する意見・
要望等

①令和6年7月豪雨災害時のMAFF-SATの派遣、応急工事・査定設計に対するアドバイス等の支援に感謝するとともに非常に心強く感じた。今後も継続いただけるよう、国の災害対応・支援における人員確保や人材育成をお願いしたい。

②舟形町の基幹産業は農業であるが高齢化と担い手不足は深刻である。令和6年12月時点で認定農業者103人中、50才未満は20人である。

若者や女性の新規参入や農業の継承を推進するための農地整備の推進、スマート農業の導入など、次世代へ農業を継承できる事業を推進していただきたい。

③舟形町は河岸段丘の地形で、河川より高いところに農地及び集落の多くが位置している。その農地を潤すため、河川から取水し、長い距離を経て導水する農業用水路は大半の区間が山腹や山際である。そのため山側に降った雨水が用水路へ流入し、下流家屋等へ浸水被害を及ぼしている。余水吐により水路内の水を排出しているものの、近年多発する豪雨では、溢水被害を防ぐことができない状況である。

また、町では水田の湛水防除を目的とする排水機場を有しているが、近年激甚化する豪雨に排水量が追いつかず、排水機場が浸水する恐れから、操作員が避難する事例があった。

農業用水路等が災害を誘発しないよう、また、施設が効用を発揮できるよう、頻発する近年の異常気象・異常降雨に対応した設計基準への見直し、地域の実情に即した対策、既存設備の機能強化等、防災減災対策を推進していただきたい。

④揚水機場、排水機場などの設備はメンテナンスを行っていても突発的な故障に見舞われ、緊急に修繕を行わなければならないことが少なくない。いつ起こるか予想できない突発的な故障に対する緊急的な整備補修制度について、制度要件を満たすものであれば、いつ何時でも制約無く活用できるような対応を推進していただきたい。

※1 自治体の概要は、令和6年度農業農村整備管理計画より抜粋。

※2 取組状況は以下のとおり。

事業名	地区名	受益面積 (ha)	事業費 (百万円)	予定工期	備考
県営農地整備事業	三光堰西 (3期)	85	1,978	R1~R10	
	桧原	32	856	R2~R11	
	沖の原1期	52	1,493	R4~R11	
	沖の原2期	42	1,130	R5~R12	
	紫山向山	48	1,404	R4~R11	
水利施設等保全 高度化事業	舟形右岸	550	200	R8~R9	三光堰 水管理システム
農村地域防災減 災事業	大堰下流	120	600	R8~R13	大堰 水路・余水吐
	へグリ	550	550	R9~R16	三光堰 水路トンネル
農業水路等長寿 命化防災減災事 業	小松	25	51	R5~R7	水路
農業水利施設ス トックマネジメ ント事業	太郎野	21	27	R6	送水管
	松山堰	42	11	R6	取水ゲート